

闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s—2010s

Blaze Carved in Darkness: Woodcut Movements in Asia 1930s – 2010s

展覧会の概要

木版画は、特殊な素材や道具を必要とせず、また安価に複数の作品を制作できる DIY 的な簡便さのゆえに、美術の世界を超えて、アジア各地の政治・社会運動のなかでしばしば制作されました。自分の感情を主体的に表現し、社会の問題をえぐりだし、遠隔地の人々との連帯を求める「メディア」として、木版画はアジアの近代化に重要な役割を果たしました。本展では、1930s—2010s アジアにおける木版画（リノカットを含む）作品と、版画を掲載した印刷物などの資料あわせて約 400 点を紹介します。木版画を大衆的な「メディア」としてとらえ、異なる時代と地域をつなぐ版画運動のネットワークに注目する本展が、日本を含むアジア近現代美術史全体をとらえなおす契機になるかもしれません。

なお、本展は福岡アジア美術館、美術館連絡協議会との共同開催となります。アーツ前橋では、福岡アジア美術館での展示作品に加え、現代社会における諸問題を扱い、地域や人々ともに活動を行うアーティストの表現として、オキン・コレクティブ（韓国）とイルワン・アーメット&ティタ・サリナ（インドネシア）を同時に紹介します。

- 会 期：2019年2月2日（土）～3月24日（日）44日間
- 開館時間：11時～19時
- 休 館 日：毎週水曜日
- 会 場：アーツ前橋 地下ギャラリー
- 観 覧 料：一般 500 円、学生・65 歳以上・団体（10 名以上）300 円、高校生以下無料
障害者手帳等をお持ちの方と介護者 1 名は無料
※以下の条件でご来館の方は、300 円
トワイライト割：17 時以降に来館された方
- 主 催：アーツ前橋、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 共 催：福岡アジア美術館
- 協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
- 出品点数：約 400 点
- 出品作家：オキン・コレクティブ（韓国）、イルワン・アーメット&ティタ・サリナ（インドネシア）ほか
- 関連イベント：
 - ①トーク「アジア美術史を裏返す—木版画に見る抵抗と解放（仮）」
講師：黒田雷児（福岡アジア美術館運営部長、本展企画者）

日時：2019年2月2日（土）14:00～16:00

会場：アーツ前橋 スタジオ

定員：40名（要事前申し込み）

②アーティスト・トーク：オキン・コレクティブ（仮）

講師：オキン・コレクティブ

日時：2019年2月3日（日）14:00～15:30

会場：アーツ前橋 スタジオ

定員：40名（要事前申し込み）

参加費：無料

③トーク「戦後日本美術運動（仮）」

講師：ジャスティン・ジェスティ（ワシントン大学教授、日本美術研究家）

日時：2019年3月16日（土）14:00～16:00

会場：アーツ前橋 スタジオ

定員：40名（要事前申し込み）

参加費：無料

④ロビーライブ Vol.19

出演者：Maico

日時：2019年3月9日（土）14:00～15:30

会場：アーツ前橋 交流スペース

参加費：無料

⑤学芸員によるギャラリートツアー

日時：会期中2回開催予定

集合場所：アーツ前橋1階総合案内前

参加費：要観覧券

□主な出品作

左：ホン・ソンダム《五月-大同世-1》1984年

中：レオニーリョ・オルテガ・ドロリコン《農園の中で》2014年

右：オキン・コレクティブ《オキン・アパートメント・プロジェクト》2009-2010年



コレクション展

56歳の逃避行 近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路

展覧会の概要

アーツ前橋では、地域ゆかりの作家や展覧会などのアーツ前橋の事業に参加した作家を中心に作品を収集しています。

本展は、当館が所蔵する郷土の画家・近藤嘉男（1915-1979）の作品を一堂に会した個展形式のコレクション展です。近藤は1971年に五度目の欧州外遊に赴きました。その日記には前橋で過ごす日常の苦悩と、それを忘れさせる欧州風物への感動が綴られています。本展では、56才の近藤が記し遺したこの極私的なストーリーを補助線として、彼の画業を振り返ります。また、彼の写真やヨーロッパへの憧憬と想像が詰まったスクラップブックなども併せて展示します。作品を中心にテキストや写真、印刷物が渾然となったユニークな展示空間を作ることで、近藤嘉男という一人の「人間」を多面的に紹介していきます。

□会 期：2018年2月2日（土）～3月24日（日） 開館日数：44日

□開館時間：11時～19時

□休 館 日：毎週水曜日

□会 場：アーツ前橋 ギャラリー1

□観 覧 料：無料

□主 催：アーツ前橋

□出品点数：20点程度

□出品作家：近藤嘉男

□印 刷 物：未定

□関連イベント：※関連イベントについては調整中

□主な出品作品：近藤嘉男《港のマリア》1950年、近藤嘉男《カプリ島》1967年、
近藤嘉男《分有の鳥》1974年

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【ラーニング】

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。				
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。				
事業名称	学校連携事業 (スクールプログラム)	あ一つひろば	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事業
時期・日数	(1)アーティスト・イン・スクール 年4回程度 (2)広報物作成、無料招待ウィーク 1冊、3回程度	5月、8月、10月、11月、1月、3月	7月～3月 6回	(1)アリスの広場 12回/1年 (2)南橋団地 12回/1年 (3)えいめい 6回/1年 (4)のぞみの家 6回/1年	(1)メンバーシップ会員 個人:95人(90人) ペア:55人(52人) 賛助:1人(1) 法人:25社(20) 収入:1,000千円(844千円) (2)内H28年度実績
場所	市内小中高等学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー	ギャラリー、館外(アリスの広場、 桃川小学校、南橋団地、えいめい、 のぞみの家など)	(2)内H28年度実績
学芸担当者	山田	山田	辻	今井	
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える実行 委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助 金			・アートによる対話を考える実行 委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助 金	
最終修正日	2018/11/20	2018/7/13	2018/7/19	2017/12/14	
【目的】 ・参加者層のターゲット ・ねらい	学校生活の中で質の高い芸術に 触れ、アーティストとの交流を行 いながら児童・生徒の表現力やコ ミュニケーション能力を育成す る。 ターゲット: (1)小学校～高校の児童・生徒 (2)教員 ・児童・生徒が現代美術の表現 の多様さを知る ・アーティストと活動を行うこと で、表現力が身につく	1.サポーターやアーティストによる 多様な芸術体験を通して、アーツ 前橋への来館促進を行い、将来 の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウ を身につける。 ターゲット:アーツ前橋に来館した ことの無い親子(隣接施設利用者 等) ・初めて来館して造形活動や鑑 賞を体験しながら、アーツ前橋は 自己や他者の表現が認められる 場所であることを理解する ・サポーターが企画や運営へ継 続的に関わる。	美術鑑賞は敷居が高いと思っ ている人たちや作品や作家につ いての知識を得ることが作品鑑賞 だと考える人に、自分の眼で作 品鑑賞する楽しさを知ってもら う。 ターゲット:事業主旨を理解し、 アートやコミュニケーションが好き な人 ・アーツナビゲーターのスキル アップと、研修後も自主的な活動 を行い、展覧会ごとに「おしゃべ りアートデイズ」を実施できるよ うな組織作り	・アート/美術館が社会課題に 対してどのような役割を果たせる のかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアート プロジェクトを運営することのできる 人材を育成する。 ・地域の福祉/教育現場との連 携関係を築く。 ターゲット:美術館から精神的/ 物理的にもアクセスが最も難しい と考えられる人 1. アート/アーティストを通じて福 祉/医療/教育における社会課題 を見つめ、美術館へのアクセスに困 難を抱える人たちへプログラムの参 加を促進する。 2. アウトリーチプログラムを通じて、 美術館へのインリーチへ繋げる。	(2)サポーター 人数:80人(73人) 継続人数60人(59人) (2)内H28年度実績
【①投入】 成立予算	1,040千円	900千円	460千円	1,739千円	
【②内容・活動】 事業の概要	(1)アーティスト・イン・スクール: アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料 招待ウィーク:児童生徒とのつな ぎ手である教員向けに広報を行 い、アーツ前橋の事業への理解 を促す	サポーター等と協働しながらア ーツ前橋に親しみ、多様な芸術に 触れるワークショッププログラムを 実施	来館者と一緒に対話しながら作 品鑑賞をするファシリテーターの 育成。作品研究の方法や、ガイ ドプランの作成や、実践でのコー チングを行いながら、情報提供 型のファシリテーションを学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士 /山賀さくら (4)のぞみの家×廣瀬智央/後 藤朋美 が、定期的なワークショップやリ サーチプログラムを行う。	
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	実施予定校を前年度に調整し、 決定する	キッズフェスタ等まちなかの大規 模イベントと連携し、広報活動を 効果的に行う	展覧会会期中に「おしゃべりア ートデイズ」を実施し、来場者とも に作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかけ る。	H29年度事業の反省や課題を考 えながら、関係各所との連携関 係を深める。また、プロジェクトを 広く周知するための記録媒体の 拡充を図る。	
【数値目標】-(結果)	実施校数 4校 結果 5校	実施回数 大規模:3回 小規模:3回 結果	自主研修 回数 15回 結果	ワークショップ 実施回数 36回 結果	
指標1	参加者数 学校規 模によ る	参加者数 450 人	おしゃべりAW 参加者数 200人	参加者数 400 人	
指標2			受講継続数 10人		
指標3					
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のター ゲット、ねらいに対する 成果(評価調査からト ピックを転記)					
特記事項					

■アーティスト・イン・スクール

(1) 概要

アーティストを学校へ派遣して授業やワークショップ等を行う事業。平成 28 年度より 2 年間を通して、小中学校、ならびに部活動や空き教室滞在型のプログラムなどを行ってきた。今年度は 2 年間の事例を踏まえ、さらなるアーティスト・イン・スクールの可能性を検討していく。事業実施に当たっては NPO 法人まえばしプロジェクトがコーディネートを行い、当該 NPO のもつ教育の専門性やネットワークを活かしながら事業を実施する。

(2) 進捗状況

平成 30 年はこれまでの実績を踏まえ、10 月より継続 2 名、新規 1 組のアーティストが市内の小中学校・中学校の 5 校で活動を行っている。

■今年度派遣アーティスト

住中浩史 (すみなか・ひろし)

1977 年生まれ、広島県広島市出身。明治大学商学科商学部 近年は、表現の専門家のためでない『場』づくりをメインに活動。色々な人が『何かしたくなる』アフォーダンスのある『場』と『出来事』を創出し、その『場』が時間をかけて使われていく中で、小さくとも新しい地域の文化が生まれることを目指している。

◎第六中学校

▷対象：美術部 1, 2 年生、8 名

▷コンセプト：美術教員をアシストする形で学校へ入り、美術の授業や部活での活動を通して、前年度制作したアイテムの活用を推進する。また、来年度行われる関東ブロック造形教育研究大会群馬大会へむけた授業のアドバイス等も行うことで、長期的にかかわり続ける AIS の可能性を模索する。

▷スケジュール：10 月 15 日（月）～2019 年 2 月下旬まで*基本的に毎週月曜日

◎東中学校

▷コンセプト：これまで学校内で実現できなかった生徒作品をまとめて展示ができるプチ美術館（ホワイトキューブ）を、美術担当の教員と使い方等の相談をしながら余分教室の一部に制作する。また、できあがった空間を使って美術部と一緒に作品の展示やインスタレーションを行い、今後の活用を見据えた展開をおこなう。

▷スケジュール：10 月 12 日（金）～10 月 19 日（金）空間制作。

12 月～2 月、美術部へ定期的に訪問。

◎わかば小学校

▷コンセプト：学校の鑑賞教育が充実し、子どもが関わりたくなるアイテムを美術担当教員と対話を重ねながら考え、制作する。来年改修に入る図工室（予備）の一部にわかば小オリジナルの展示空間を作り出す。

▷スケジュール：11月7日（水）～11月30（金）空間制作。

12月、作品展開催

中島佑太（なかじま・ゆうた）

1985年群馬県前橋市生まれ。幼少期を郊外型団地で過ごしたもと野球少年。野球っぽいから、という理由でワークショップを始める。2016年にアーツ前橋、群馬大学の学生たちと旅をテーマにしたワークショップユニット「LDK ツーリスト」を立ち上げ、南橋団地でワークショップを行う。

◎桃川小学校

▷対象：5年生3クラス、4年3組

▷コンセプト：2016年度「表現の森 協働としてのアート」のプロジェクトのうち南橋団地で行ったプロジェクトの継続事業として昨年度に引き続き実施。図工の授業にT2（教員の補助）として参加する。

▷スケジュール：10月15日（月）～3月19日（火）計48日、65コマ

イルワン・アーメット&ティタ・サリナ（インドネシア）

ジャカルタ（インドネシア）を拠点に活動。ジャカルタ・インスティテュート・オブ・アートでグラフィックデザインを学び、アーメット・サリナ スタジオデザインを設立。2010年から公共空間における都市問題や社会的・政治的問題を創造的な資源としてアートプロジェクトとして扱う。平成28年度にはアーツ前橋の主催する滞在制作事業で来日して制作を行い、今年度開催の「つまずく石の縁」展では作品の展示を行った。

◎桃井小学校

▷対象：2年生3クラス60名

▷コンセプト：インドネシア出身のアーティストの話を聞き、彼らと一緒に活動をすることでコミュニケーション能力を育むとともに異文化理解を深める。インドネシアで発生した地震を題材としたワークショップを通じて、インドネシアという国をはるか遠くの未知の国ではなく、海や地盤でつながっていることを感じながら、自分たちの生きている社会やひいては世界に対して広い視野を育成することができた。

▷スケジュール：10月15日（月）9：30-11：30